

令和3年度 篠原土地区画整理事業に伴う発掘調査

# 若宮ノ東遺跡

現地説明会資料



記者発表 : 令和4年2月25日(金) 11時00分~12時00分

現地説明会 : 令和4年2月27日(日) 10時30分~11時30分

## 1. はじめに

南国市教育委員会では、平成 29 年度より篠原土地区画整理事業に伴う本発掘調査を実施してきました。令和 2 年度までの発掘調査では、弥生時代～江戸時代の遺構が見つかり、なかでも弥生時代から古墳時代初頭を中心とした集落跡とそれに伴う遺物、古代を中心とした建物跡を多く確認しました。

## 2. 調査の成果

令和 3 年度の調査では、遺跡の北側で弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物跡が新たに 6 棟、古代の総柱建物跡が 4 棟①～④とそれに関連していると考えられる溝状遺構を 1 条、中世の土坑墓を 1 基、近世の土坑墓を 7 基発見しました。

弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物跡の周辺では壺や甕・鉢・高杯などの土器片が大量に出土した溝状遺構と土器棺 3 基が見つかりました。

古代の総柱建物跡は規模がいずれも 3 間×4 間、面積は概ね 50 m<sup>2</sup>以上の長方形に揃っていて、南北方向と東西方向をそれぞれ軸にして 2 棟ずつ並んでいました。今回見つかった建物跡に、昨年度見つかった 1 棟⑤を合わせると、東西方向を軸にした総柱建物跡は 3 棟が並んでいる様子が分かりました。その 3 棟の南で見つかった 2 棟③④は、②の西端の柱筋に沿って南北方向を軸にして並んでいます。また、これまでの調査で発見された⑥⑦⑧の 3 棟は、③④より西側にずれた位置に同じ規模で南北方向を軸にした長方形に揃っていました。

中世の遺構は土坑墓から土師質土器皿が出土し、その他にも検出面から貿易陶磁器の青磁椀(龍泉窯系鎬蓮弁文)・土師質土器椀・皿、瓦質土器の羽釜が出土しています。

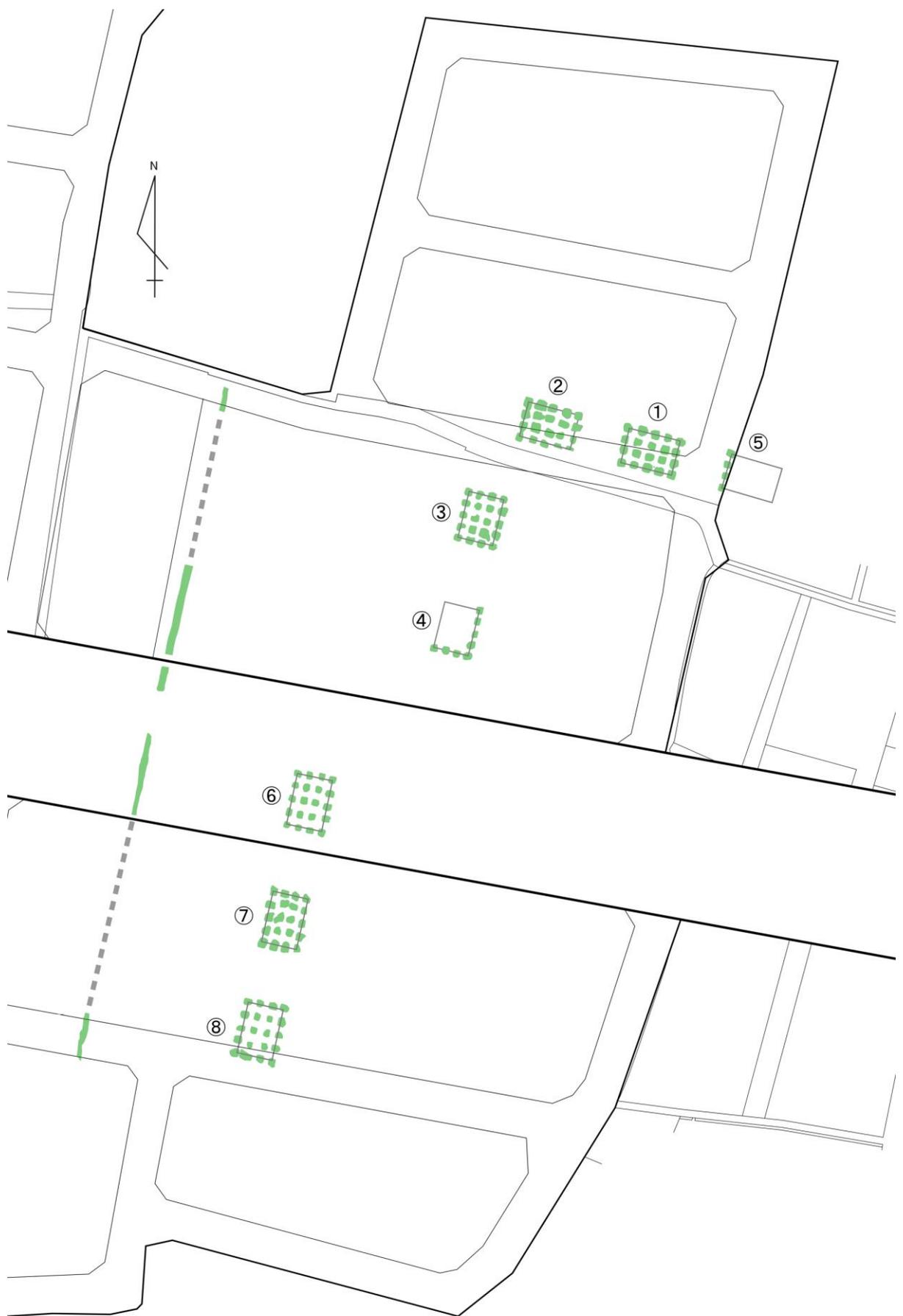
近世の土坑墓はすべて長方形で、遺構の底から六文銭(三途の川の渡し賃)や土師質土器皿・お猪口・煙管、鉄釘が多数見つかりました。

## 3. まとめ

今回見つかった弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物跡は調査区の北端に位置していることから、この集落がさらに北に広がっている可能性があることが分かりました。これまでに確認された竪穴建物跡は埋蔵文化財センターの調査で確認されたものを加えると、東西が約 490m、南北が約 230mの範囲に広がっており、県内でも有数の大規模集落跡となります。

古代の総柱建物跡は、8 棟が柱筋を揃えながら規則正しく並んで建てられていて、正倉(高床式倉庫群)であることが分かりました。正倉の中には律令制の租税制度で定められた地方の財源である「租(穀物)」が納められていました。このような正倉群は県内では類例がなく、郡衙(各郡に置かれた役所)の正倉と考えられます。

このように、今回の成果は土佐最大の穀倉地帯香長平野を擁する長岡郡において、どのように律令制が浸透していったかを垣間見ることのできる非常に重要な発見といえます。



正倉・区画溝配置図 (S = 1/800)



総柱建物跡①検出状況



弥生土器棺墓 1 出土状況



弥生土器棺墓 2 出土状況



弥生土器出土状況



中世土坑墓土師質土器皿出土状況